

浜松医科大学卒業後、県東部、西部の病院で産婦人科医として活躍。4月に同大女性医師支援センター診療助教に就任した。伊豆市(旧修善寺町)出身。49歳。

—現在取り組む業務は。

「女性医師の仕事と子育ての両立や復職の支援体制構築を目指している。復職に向けた研修プログラム開発と連携に向け、大学医局や県内病院に協力を要請して回っている」

—県内の現状は。

「公的病院は産休育休制度が整い、保育施設も整いつつある。ただ、子どもの小学校入学後は支援制度が

## ふじのくに女性医師支援センター専任医師を務める

やぐち 谷口 ちづこ さん (清水町)  
千津子

### この人



無くなり、復職支援も不十分。大きな病院が少ない県東部では意欲喚起や人材発掘が求められるなど地域事情も異なる。東部、中部にも拠点ができるのが理想

—専任としての抱負は。

「自分が産休育休を取得した十数年前は批判もあった。退職や非常勤勤務もあ

る。自分の経験や多岐にわたる支援メニューを伝えられたら。第一線を退くことに挫折を感じるだろうが、意欲さえあれば、必ず復帰できることも伝えたい」

—制度以外の課題は。

「『迷惑になる』と制度利用に萎縮する人がいる一方、周囲への感謝もなく最大限利用する人もいる。女性医師と周囲が互いに支え合えるよう意識改革ができればいい。将来は子育てと仕事を男女の関係なく楽しめる環境ができれば」

◇ 高校生と中学生の2人の娘がいる。